

ミュージアムを支える人々 People supporting the museum

02

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、県の事務職員や研究員以外にも多くの関係者によって運営されています。このコーナーでは、インタビューを通じてミュージアムを支える人々の仕事や、その素顔を紹介していきます。



NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク

よこやま けんじ 横山 謙二

1971年東京都目黒区生まれ港区育ち。東海大学大学院卒業後、博物館の臨時職員やコンサルタント会社などに勤める。現在は、NPO法人静岡県自然史博物館ネットワークで、研究や広報などを行っている。

Q1 横山さんの御経歴・専門分野についてお聞かせください。

A. 1971年に東京都目黒区で生まれ、周りをビルに囲まれた港区で育ちました。小さい時から恐竜や化石が好きで、高校生になると、よく関東近郊に一人で化石採集にでかけていました。1991年に東海大学海洋学部に入學し、静岡市（当時清水市）で暮らし始めます。大学時代は、仲間たちと共に、県内各地で地質調査をしていました。この仲間たちと行った調査が楽しかったため、今でも時折、学生たちと調査を続けています。専門は、地質学・古生物学です。最近では、富士市南松野の魚類化石についての研究を主体に行っています。趣味は写真撮影です。最近では、暇を見つけては、野鳥や昆虫の写真の撮影をしています。専門よりもむしろ、熱心かもしれません。

Q2 ミュージアムで活動された中で、印象深かった出来事はありますか。

A. 2017年秋に開催した自然系文化祭「自然史しずおか祭」です。研究員をはじめ、多くのミュージアム関係者に参加していただきました。わずか1週間あまりの期間でしたが、発表者の皆さんと意見交換や、お互いの研究・活動内容について理解を深めることができました。多くの方々に、私たちの研究や活動を理解してもらうきっかけになったと思います。このイベントを通し、見学者の中からは、「自分も研究したい、研究活動に参加したい」という声もありました。ミュージアムが、こうした人たちの活動拠点となり、より一層魅力的な博物館活動ができるようになると良いと思います。

Q3 横山さんが携わった中で、展示物や資料でオススメのものはありますか。

A. オススメしたい標本は沢山ありますが、あえてあげるのであれば、宮澤市郎氏によって採集された、「富士市南松野の魚類化石」です。この魚類化石には、世界的にも産出数が少ないカタクチワシヤ、新種の可能性があるコノシロの仲間などが含まれています。まだまだ研究途中で、これから新たなことがわかるかもしれません。ミュージアムの標本には、この魚類化石以外にも、まだまだ整理や研究が進まず、その価値が明らかになっていない標本も数多くあります。私は、こうした標本の価値を明らかにするために、努力していきたいと思っています。

ご自身の研究のみならず、イベントの運営、広報活動等、幅広い分野で活躍されている横山さん。そのバイタリティを活かした、ミュージアムでの更なるご活躍が期待されます。

——— 次回は、NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワークの佐々木さんご夫妻です。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください。)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚏 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル
- 【8-B乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車】

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

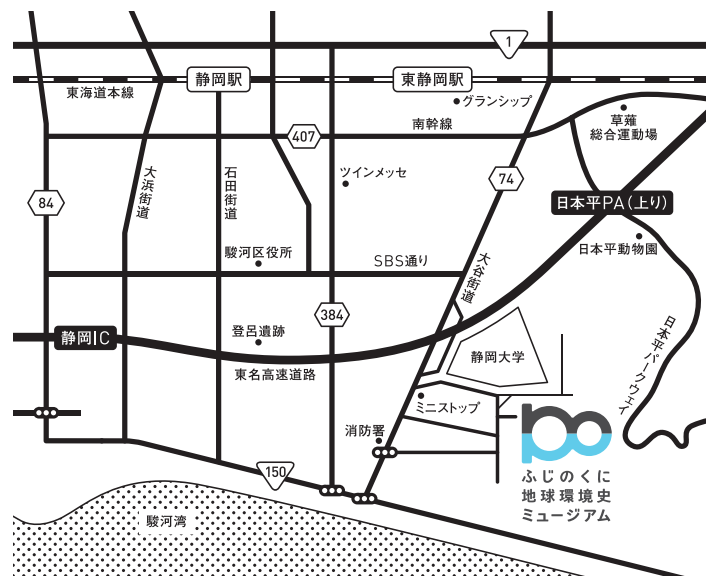
[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

📌 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

☐ 思考を拓くミュージアム ☐ ミュージアム2周年イベント・地球環境史 ☐ ミュージアムダイアリー ☐ ミュージアムを支える人々

[vol. 008]



(筆者：左から3人目)

思考を拓くミュージアム

2017年12月31日付で学芸課の高山浩司准教授(植物担当)が当館を退職し、今年1月から京都大学理学研究科の准教授に御栄転されました。2014年度から当館の開館に携わられた高山准教授に、巻頭コラムの執筆をお願いしました。

ふじのくに地球環境史ミュージアムは2年目の新年を迎えました。今回の巻頭コラムでは、最後の展示室に込められた思いを紹介いたします。本ミュージアムの常設展は、考えることで気づく驚きや発見を大切に「思考するミュージアム」がコンセプトです。展示室の各所に来館者が思考を拓くための仕掛けがちりばめられ、自ずと地球環境史に思いを巡らせることができるようになっています。

大小ある様々な仕掛けの中でも、私たちが「直球勝負」したのが、展示室10の百年カードです。このカードには、来館者自らが考えた百年後の静岡が豊かであるためのアイデアを書いてもらっています。自ら描くという行動を通じて、地球環境史に関してより深く思考することを促しています。

来館者の想いが込められた百年カードは、展示室10の壁面に掲示され、来館者同士がお互いの考えを共有するための場にもなっています。自分と同じ意見に共感したり、思いもよらない考えに驚いたりしながら、思考の多様性を肌で感じ、豊かな未来を想う展示になっています。また、このカードを集約し分析することで、来館者が描く豊かさのかたちをより具体的なものとして捉えることが可能になると期待しています。たくさんの方々の来館者の想いが表現されたここは、私にとってとても大切な場所です。

企画総務課の石原さんからニュースレターに使う私の写真を撮りたいと相談があり、真っ先に思いついたのがこの場所でした。研究活動が本格化し、全員揃うことが少ない研究員にも無理を言って、最後は全員で記念写真を残させてもらいました。昨年末で2年9ヶ月お世話になったミュージアムを退職しましたが、これからは少し離れてミュージアムの活動を応援するとともに、百年後の未来を創造する人材を輩出していきたいと思っています。

京都大学理学研究科生物科学専攻 准教授 高山浩司